

関西支部より

日本包装管理士会
関西支部支部長 桃川 公一

関西支部の桃川です。暑い日が続きますが、皆様お健やかに過ごしてでしょうか。7月は各地で災害級大雨や土砂災害が発生、日頃から防災準備や万全の熱中症対策が不可欠です。

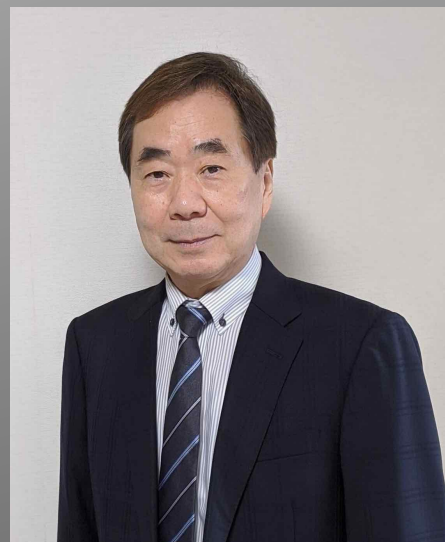
緊急事態宣言下で東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催、夏休みの人の移動、変異株の猛威などで全国的に感染者数が増えてきました。心身とも自粛疲れで自主的努力も限界にきています。ワクチン接種が進み早く収束して欲しいものです。

最近HP、CSR報告書で「SDGs」に言及する企業が増えてきました。オリンピックでも「SDGs五輪」を推進、2025年の関西万博も「SDGs」が達成される社会をめざし開催される予定です。IPPでも“持続可能な生産と消費”、“海洋保全や森林保全”の環境側面へのアプローチや環境に配慮した商品への取り組みは課題と言えます。昨年海洋プラ問題で容器包装だけでなく、大量消費される不織布マスクごみが拍車をかけています。マスクを洗濯しリユースする使用者も出てきました。IPPの皆様もプラ製品を賢く使い、3Rに心掛け使い捨てプラの廃棄量を少しでも減らしていきましょう。

さて、関西支部も各支部同様に今年度の活動を始めています。6期～55期計100名の会員向けに、三つの事業（ミニセミナー、合同研究会、見学会）を行っています。「会員無料ミニセミナー」は年4回開催、今年度13年目を迎えます。会員が気軽に参加できる様に参加費無料の勉強会として好評を得ています。「関西女性の包装研究会（W会）と共催の合同研究会」は年1回開催、今年度12年目を迎えます。お陰様で女性参加が増え活発化してきました。「見学会」は、2008年から「見学先でのセミナー」を加えた「見学会&セミナー」を年1回開催、今年度14年目を迎えます。現在は中止していますが、三つの事業とも勉強会後の交流会が、情報交換と参加者間のネットワークづくりができると歓迎されています。また、高齢化が進む運営委員に一昨年から女性3名が加わり来年の支部設立50周年記念事業実施に向け計画を進めています。プロ野球界では57年ぶりのセパ関西対決実現に向け阪神とオリックスが頑張っており、応援にも熱が入ってきました。関西支部も皆様に参加いただき、研鑽を積める事業を継続していきますので、尚一層の応援をお願い致します。

《INDEX》

日本包装管理士会 関西支部長挨拶	1
総会決議報告	2
支部だより	4



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.131

ipp
news

ipp news
2021年8月25日発行
編集人／道明 誠
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

日本包装管理士会 定時総会 会長挨拶

日本包装管理士会会長の山田孝志です。35期です。

新型コロナウイルスの感染防止は1年以上続いていますが、会員の皆様はどのようにお過ごしでしょうか？

昨年の活動状況は、早期にWEBシステムを導入したところはセミナーも行い参加者も集まり活動いただきましたが、活動方法を思案しているところは、その最中で一年が過ぎてしまったということでしょう。

新型コロナウイルスの変異株が拡散されている中、ワクチン接種は計画より遅れていて、コロナ禍がいつまで続くかわからない状況です。そのため、本年の総会も集会しての開催は中止し、返信はがき、メール等の通信手段を使い、会員の意思を確認して行うことにいたしました。理事の他、事前に希望した会員はZOOMで主張して質問できるようにいたしました。これにより遠方の会員も総会にオンラインでライブ参加できるようになりました。

アフター・コロナでは以前には戻らず、世の中を変えられています。IPPも現場の組織や会の運営方法について見直す時期と考え、活動方針に議論する課題として入れています。

今年も皆様のご理解とご協力とお知恵をお願いして、総会の挨拶といたします。

第55回 定時総会に関するご報告

2021/07/10

理事（事務局担当）井上伸也(5期)

第55回日本包装管理士会定時総会は新型コロナウイルス感染拡大防止対応の為、前年度と同様に会員の皆様にお集まりいただいて討議していただく方式を中止し、6月初旬に議案書をホームページに掲載するとともに、e-mailアドレス登録のある会員各位には、e-mailに議案書を添付して送信し、個別に内容の審議を行っていただく方式とし、議決権行使用のハガキを使用して、郵送による投票をお願いしました。

議決権行使のハガキは6月20日までに投票(投函)していただくことをお願いし、6月23日午前中事務局到着分までを有効として集計させていただきました。

定款の第17条に定足数「（１）総会は、出席者数の合計が全会員数の1/5以上の出席で成立する。（２）書面、または代理人による表決者は出席したものとみなす。」の記載があり、本総会は規定に則り成立しました。結果は次頁の通りです。

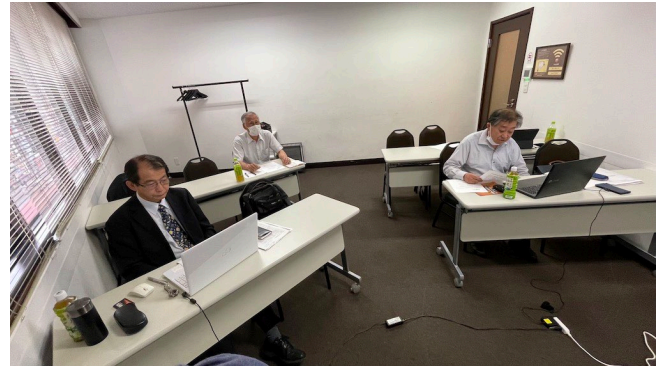
議決権行使ハガキが100%回収されなかったことは残念に思いますが、COVID-19の感染が急速に拡大する状況下で、集会方式に代わる議案個別審議方式を受け入れていただいた会員各位には大変感謝いたしております。今後、郵便投票以外の投票方式も検討して参ります。

また、初の試みとして6月23日(水)15時～16時30分の時間設定で、ZOOMを利用したWeb配信を行いました。Web配信は総会に替わる説明会として設定し、当日は会長はじめ4名の理事が池袋の貸会議室からWebを通してご説明し、監事はWeb参加で監査報告を行いました。役員以外にも3名の会員に参加していただき、集会プラスWeb配信により少しでも多数の会員に総会へ参加していただける第一歩を踏み出すことが出来ました。ご協力ありがとうございました。



【回収された議決権行使ハガキの詳細内容】

1. 会員数：606名
2. 投票数：271票 投票率＝44.7%
3. 有効票：270票
有効票の内訳は①～③の通りです。
 - ①議決権行使票：176票 （反対：0票）
 - 1号議案 2020年度事業活動報告及び収支決算報告 ⇒ 賛成176票で承認
 - 2号議案 2020年度監査報告 ⇒ 賛成175票で承認（表示なしが1票）
 - 3号議案 2021年度事業活動計画(案)及び収支予算(案) ⇒ 賛成176票で承認
 - ②委 任 票 ： 90票 （委任票は賛成票として集計されます）
 - ③棄 権 票 ： 4票
4. 無 効 票 ： 1票 （白紙返信の為票集計からは除外しました。）



第49回 関東支部 定時総会に関するご報告

2021/07/10

理事（事務局担当）井上伸也(5期)

関東支部第49回定時総会はCOVID-19感染防止を考慮して、集会を取り止め議案書をホームページに掲載するとともに、e-mailに議案書を添付して会員宛に送信し、議決権行使のハガキによる投票をお願いしました。

議決権行使のハガキは6月17日午前中事務局到着分までを有効として集計いたしました。

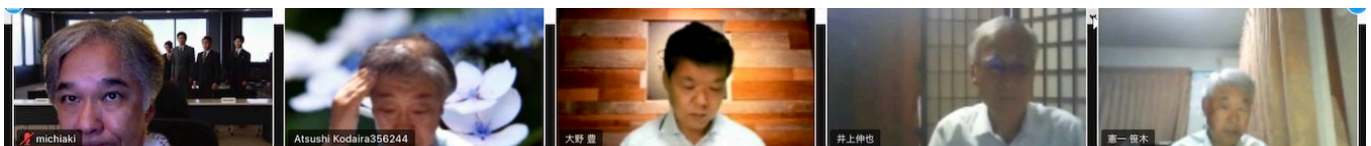
回収された議決権行使はがきの結果（詳細な内容）は右記の通りです。

議決権行使ハガキが100%回収されなかったことは残念ですが、議案審議に個別での審議という新方式を受け入れていただいた会員各位には大変感謝いたします。

また、今回は6月17日20時～21時30分の時間帯をWeb説明会として設定し、集会総会に替える意見交換場を設けました。今後、集会プラスWebによる新方式採用として第一歩を踏み出せたと感じる定時総会でした。ご協力いただきありがとうございます。

【回収された議決権行使ハガキの詳細内容】

1. 投票数：105票
2. 有効票：105票
有効票の内訳は①～③の通りです。
 - ①議決権行使票：64票 （反対：0票）
 - 1号議案 2020年度事業活動報告及び収支決算報告 ⇒ 承認されました
 - 2号議案 2020年度監査報告 ⇒ 承認されました
 - 3号議案 2021年度事業活動計画(案)及び収支予算(案) ⇒ 承認されました
 - ②委 任 票 ： 38票
（委任票は賛成票として集計されます）
 - ③棄 権 票 ： 3票



第52回 中部支部 定期総会（開催中止）

2021年度の「第52回中部支部定期総会」は、昨年度に続いて、新型コロナウイルス感染拡大の状況が落ち着かない社会情勢から、会員各位の健康や安全面などを第一に考え、開催を中止させていただきました。

前年度同様に、中部支部運営委員会において事前に審議・承認をいただいた「第52回中部支部定期総会

議案書」を中部支部会員各位に郵送し、「審議内容同意書」を返送いただく形での手続きを以て総会での審議に代えさせていただき、多数の同意をもって各議案が承認されました。

第44回 西日本支部 定時総会

第44回日本包装管理士会西日本支部定時総会は、新型コロナウイルス感染防止のため、集合形式の開催を取りやめ、活動報告・決算報告を会員の皆様にEメールまたは郵送で送付し、承諾書を返送して頂くことに致しました。7月21日時点で承諾書の返送数が会員の過半数に達しました。この場をお借りしまして、お礼を申し上げます。

・役員

支部長 : 藤生 廣来
副支部長 : 上橋 健一
副支部長 : 森永 浩史
事務局長 : 八田 彰
理事 : 中村 格勇
理事 : 末松 洋亮

本年度の事業計画を下記いたします。

・役員会：4回（年度後半に予定）

※コロナ感染症の状況によりオンライン形式

・研究会：2回（年度後半に予定） ※同上

・研修会・講演会、見学会、交流会：年度後半に予定（コロナ感染症の状況による）

コロナ禍で講演会、見学会、交流会の開催が厳しい状態が続いていますが、インターネットを利用した情報発信を積極的に行いたいと考えています。

東北支部だより

東北支部支部長 鈴木 雅彦(23期)

コロナ禍での支部総会の開催。対面での開催はやはり難しい状況との理事会判断で、今年度もZoom開催を計画致しました。しかし残念ながらほとんどの会員から委任状の提出、そして参加申込は無しと、とても厳しい状況と成りました。急遽臨時の理事会をzoomで開催し、開催について協議致しました。その結果、委任状票も過半数を超えていることも有り、臨時理事会をもって総会とする運びと成りました事、この紙面をお借りしてご報告いたします。

今年度の事業計画では、コロナ禍で集まっの行事計画は困難と判断いたしました。逆に東北支部は会員が広域にまたがるために、逆にzoomを活用した事業計画を考えています。その一つがセミナー開催時に、テーマ2として、会員企業のPRタイムを設け、

各企業の紹介や技術紹介タイムを計画しています。管理士講座折角できた横の繋がりを活かしたいと考えています。特にこの2年間豊橋での合宿講習が受けれていない。支部での講座も開設されておらず、新包装管理士はこの横の繋がり、コミュニケーションの場が有りませんでした。今年度は少しでもその場を提供できるような、セミナー事業を開催したいと考えております。

ワクチン接種が進みコロナの終息が待ち遠しいですが、あと少しの辛抱と思ってこの一年頑張つてゆきたいと思っています。皆様のご協力もよろしくお願い致します。

西日本支部だより

西日本支部 副支部長 上橋健一（29期）

◆2020年度 研究会（オンラインセミナー）

※J P I 西日本支部殿との共催行事

2月2日（火）に開催しました「研究会」では、T O T O（株）グローバル物流推進部（現：もの創り統括部）主任技師・桐野氏より、「お客様へ製品を大切にお渡しするための活動について」と題して、輸送ストレスの把握による要求仕様の見直しと包装設計の改善事例、設計検証の取り組みについて、以下の内容でご講演いただきました。

- (1)会社概要
- (2)包装とは
- (3)適正包装の取り組み（日本）
- (4)適正包装の取り組み（海外）
- (5)設計プロセスについて
- (6)適正包装の大原則

このなかで(6)項を要約して紹介させていただきます。

- ・お客様からいただく対価を重んじ、いかに最少材料で適正な品質を創り込むか、廃棄性・組立性が良いかを限りなく追求し、その中でも必ず品質第一の理念を怠ってはならない。
- ・最適なコストを見極める考えを常に持ち、部品価格においては詳細な見積り結果などにより、重点ポイントをつかみ、作業性においては、どのような行為がネックになるのか、どうすれば皆が喜べるかを追求する。
- ・標準化思考を必ず持ち、一過性なものにならないよう将来的な発展性を必ず具現化し仕組みに落とし込むこと。

◆プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラスチック新法）

報道やインターネット情報などでご存じの方が多いと思いますが、プラスチック新法が来春には施行されます。海洋プラスチック汚染、脱炭素、海外の廃棄物輸入規制強化などに対応するため、以下の施策でプラスチックの使用抑制とプラスチックの資源循環を促進することを目的とした法律です。

- (1) プラスチック使用製品の環境配慮設計に関する認定制度の新設
- (2) 事業者が提供するワンウェイプラスチックの使用抑制
- (3) 自治体が行うゴミ収集ルートを使って使用済プラスチックを回収

- (4) 廃棄物処理法の規定による許可なく、事業者が自主回収できる認定制度の新設
- (5) プラスチック廃棄物の排出事業者に対する排出抑制及び再資源化の促進と、廃棄物処理法の規定による許可なく再資源化できる認定制度の新設

このなかで、(4)項の自主回収について触れてみたいと思います。

プラスチックを含む産業廃棄物は廃棄物処理法で廃棄物の運搬は自ら行うか、収集運搬の許可がある業者に委託することが義務づけられています。

例えば、製造・販売事業者から販売先へトラックで製品を配送する際は、パレタイズしたユニットロードに、荷崩れや擦れ傷対策のため、ストレッチフィルムを巻くことが多いと思います。配送先ではストレッチフィルムを取り除く作業が発生しますが、B t o Bの場合、廃フィルムは一般的に産業廃棄物になります。廃フィルムをメーカーが自主回収しようとする、収集運搬業者に委託するしかありません。もし、(4)項の認定の指定を受けることができれば、配送便の復路を使って、経済的で効率的な回収が可能となります。

実は製造者等の自主回収は、廃棄物処理法による[広域認定制度](#)が存在します。しかし、私の経験から申し上げますと、申請書類が多く手続きが煩雑です。プラスチック新法で自主回収による再資源化を普及させるためには、申請プロセスの簡素化を要望するところで

す。コロナウィルス感染症が「終息」となると、感染防止用のプラスチック製パーティションが全国各地で不要になると想定されます。透明で良質なプラスチックですから、プラスチック新法下で100%再資源化されることを期待しています。

◆コロナ禍での生活様式

休日の外出抑制、在宅勤務、オンライン会議などで、余裕ができた時間を自分磨きに充てる人が多いようです。私も思案した結果、昨年、50歳にして通信制大学の3年次に編入学して、資格取得、スキルアップ、今まで縁がなかった学問の知識習得に挑戦しています。会員の皆様はどのようにお過ごしでしょうか。

関西支部だより

関西支部 細田基則（13期）

「今年度は大変な年で始まりました。武漢ウイルスの感染拡大で自粛要請や新しい生活様式の推奨等、支部活動にも影響が出ていますが、他の支部の皆様も同様だと思います。」

これは昨年の関西支部だより（夏号）の冒頭の文面です。1年も経てば終息するかと思って書きましたが、武漢ウイルスは変異をして入国し、非常事態宣言が繰り返される状況が続いています。人の流れを抑えるための自粛要請が続き、支部活動にも支障が出ています。（他の支部も同様ですが）

支部会員の皆様には、コロナが終息するまでの処置として事情をご理解頂きたく考えます。

2020年度後半に開催を計画していたミニセミナーは、第45回（12/16）、第46回（2/22）、第47回（3/23）でしたが、第46回は大阪府の緊急事態宣言のため中止としましたが、他2回は規模を縮小しリモートを併用して開催しました。

また、2021年度の始まりである「20年/21年度関西支部定時総会」は、緊急事態宣言延長が続く終息の見通しが立たないため、参加予定の会員には事前に総会資料を送付、議題の賛否行使を頂き採決しました。

2020年度後半に開催できた2回のミニセミナーの様子は以下の通りです。

◆ ミニセミナーの開催

◇第45回 12月16日

「容器包装におけるプラスチック削減への取り組み」

講師：凸版印刷（株）川崎氏

「大型重量物の木枠包装からALL段ボール化実現」

講師：ナビエース（株）大山氏

◇第46回 3月23日 [計画では第47回]

「段ボール包装の開封方法の変遷と最近の傾向」

講師：大阪紙器工業（株）小坂氏

「段ボールケース製造メーカーの付加価値を上げる営業への取り組み」

講師：（株）高木包装 寺田氏



川崎講師



大山講師



小坂講師



寺田講師

【目から鱗】のお話 …筆者の独り言ですが…

支部だよりに掲載する情報として長崎委員から寄稿を頂きました。

『コロナ禍の生活の変化。働く女性の味方、[オイシックス](#)。新鮮な野菜中心の献立と材料を定期購入できます。』・・・毎週送られてくる箱に購入者に優しい印刷が入っています。



ビニールテープで封がされているので剥がしづらいです。しかし、写真のようにpushと印刷されているだけで、ここを押すとテープが剥がしやすくなります。このちょっとした配慮は特別に型を起こす必要もなく、コストアップせずにできることがとてもいいです。

このように消費者（使う人）を考えた包装がもっと増えるといいと思います。

【筆者からの返信】

テープを剥がしやすくする工夫は現役時代から（貴女が女学生の頃のことですが）いろいろ出回りましたよ！

【彼女からの返信】

この事例は加工による工夫ではなく、単にこの部分を押すとテープが箱から剥がれ、指を入れやすくなり、剥がしやすいというアドバイスが印刷されているだけです。

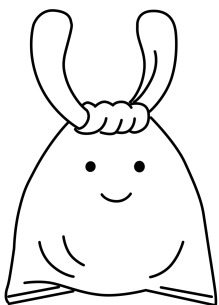
とてもシンプルでコストもかからないものなので、包装に関係する私にとっては目からうろこ、というか、別に技能を駆使しなくてもいいやん！と思ったものです。技巧に走らず、こういう気づきからの単純な工夫が大切と思って写真を撮っておきました。

【筆者談】

包装設計者は他社と差別化を図るために（アイデアを形として表すために）抜型加工による形態をいろいろ考案して技巧勝手になりがちですが、受け取る側の感覚とは違和があることに気づきました。設計に携わってきた筆者の気づきです。

寄稿してくれた彼女たち若い人は、SDGsの12番目のGoal『つくる責任つかう責任』についての感覚を持ってもらえるんだな？！と感じました。

・・・筆者にとって『目からウロコ』の出来事でした・・・



つつむ君

つつむ君が
ツイッターで
情報発信をしています

[ツイッター](#)

日本包装管理士会

検索

*** E メールアドレス登録のお願い***

活動によっては、会員の皆様にEメールで連絡を差し上げる機会が多くなっております。

会員の方には必須事項として、連絡用Eメールアドレスの登録をお願いいたしておりますが、

まだ未登録の方がおられます。

下記事務局宛Eメール送信で登録をしていただけるようお願いいたします。

e-mail : ipp@pk9.so-net.ne.jp

中部支部だより

中部支部長 岡部 智 (27期)

【2021年度包装設計の基礎講座】

2021年5月13日(木)・14日(金)の2日間、JPI中部支部との共催で「2021年度包装設計の基礎講座」を愛知県技術開発交流センターで開催いたしました。

新型コロナウイルス感染拡大の情勢下ではありましたが、当初より感染拡大予防に関する各種ガイドラインに沿った形での実施に向けて準備を進め、一部プログラムの実施形態の変更を余儀なくされたものの、参加者・講師各位・会場関係者のご協力のもと、無事に開講することが出来ました。

【2021年度の研究例会等開催予定】

2021年度の事業計画については、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大抑止の観点から、オンラインツールを活用した企画の拡充と公的な各種ガイドラインに沿った形での対面事業再開をベースとして計画を立てております。

大きな変更点としては、JPI中部支部と共催で実施していた「包装資材研究例会」・「輸送包装研究例会」・「生活者包装研究例会」・「包装技術研究例会」の4つの研究例会を、今年度は「JPI WEBフォーラム」と題したJPI全支部共同のオンライン講演会(ウェビナー)として開催し、「[コクリポ](#) (Cocripo)」を用いたウェビナー(最大定員300名)で実施いたします。なお、JPI中部支部で企画・運営を担当するウェビナーについては、引き続きIPP中部支部との共催事業とし、IPP中部支部の所属会員も無料で参加いただけます。

「JPI WEBフォーラム」以外の事業(包装技術講習会・日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会・包装技術研究大会中部大会)については、中部支部独自事業として企画を進め、現時点では従来の対面開催形式での開催を予定いたしておりますが、開催予定日までの情勢次第で昨年同様オンライン(Zoomウェビナー)へ切り替えての開催も検討いたします。

昨年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ながら、会員各位の健康や安全の確保を第一に、可能な限り会員の皆様へのサービス提供が行えるよう、支部長をはじめとする中部支部運営委員一同・事務局が一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご理解・ご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

北海道支部だより

北海道支部長 會田慶太 (47期)

5月25日に北海道支部定時総会が開催され、今年度より北海道支部長に就任させて頂く事となりましたレンゴー株式会社の會田でございます。長くご活躍をされました、酒井北海道支部長からバトンを引き継ぎさせて頂きました。この大役を務める事が出来るか大きな不安を抱えており、至らない点が多々あるかと存じますが、ご容赦頂けましたら幸いです。皆様方のお力添えを頂きながら努めて参りたいと思いますので何卒、宜しくお願い致します。

7月に入り、ようやく北海道にも遅い夏が訪れました。気温も徐々に上がって来ており、夏本番を迎える事になります。例年と違う事といえば、やはり「コロナ禍」そして「東京五輪」ではないでしょうか。コロナ禍でなければ、北海道の短い夏を楽しむ為に、多数の観光客で賑やかになり、祭りや、ビアガーデンと言った催し物がこの時期に集中して、北海道全体が明るくなる時期でもありました。コロナ禍で迎えた2年目の夏は、昨年以上に冷え切った印象を受けてしまうほど、ガラッと変わってしまいました。東京五輪については、北海道ではサッカー、マラソン、競歩が行われますが、無観客開催となり、五輪ムードを肌で感じるには程遠い感じがします。むしろ、感染拡大を懸念してか、冷ややかな雰囲気がある様に思っています。競技される選手には何ら罪はございません。国を代表して精一杯戦う姿をみて、何かこの異常な事態に少しでも光が差し込めばと願うばかりです。

さて、北海道支部の活動ですが、やはりコロナの影響を大きく受けてしまっております。本来であれば、7月に納涼ビール会をJPI、IPP合同で開催をする予定としておりましたが、中止せざるを得なくなりました。北海道支部の課題である、会員数増に繋げる良い機会であると思っていただけに大変残念です。各種研究会等も現時点で流動的となっております。オンライン開催と言った方法もあるかと思いますが、やはり直接交流出来る事に越したことはございません。

まずは、コロナを乗り越え、そして北海道支部の活動を盛り上げていく事が、この大役を務める責任であると考えております。

関東支部だより

コロナ禍における

TOKYO PACK 2021の開催について

関東支部長 古平 篤（25期）

TOKYO PACK 2021が2021年2月24日(水)～2月26日(金)まで東京ビックサイトにて行われました。通常は東ホールで催されますが、今回はオリンピック準備で使用できないため、西1～4ホール、南1～2ホールでの開催となりました。

コロナ禍におけるTOKYO PACKは通例回とは異なった展示会となりました。出展社数は267社、小間数は1,353小間、入場者数は73,698人で前回の入場者数 209,049人と比較するとだいぶ少なくなりました。展示会の主な通路には、体温計やアルコール消毒設備が設置されていました。海外からの出展も極めて少なく、展示場所が大きくあいた場所も見られました。

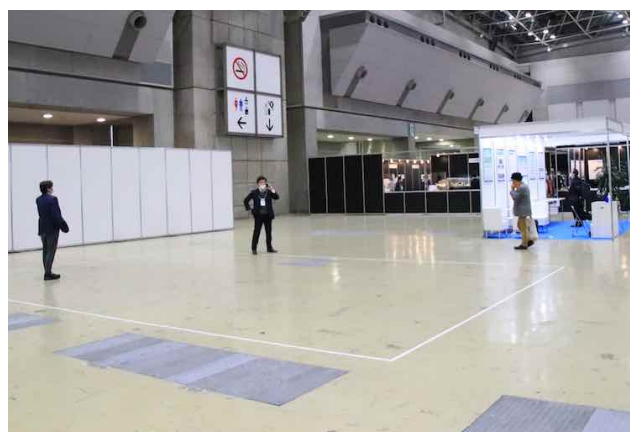
視察して目にとまったブースとして、CLOMAパビリオンを紹介します。[CLOMA](#)（クリーン オーシャン マテリアル アライアンス）は海洋プラスチックごみの削減に貢献するため、2050年までに容器包装等のプラスチック製品100%リサイクルを目指すとのことです。当パビリオンでは19社が展示し、様々な環境に配慮された商品サンプルが展示され、各社の活動についても紹介がされていました。

また、企業の中にはQRコードを展示コーナーの壁に大きく表示し、自社のホームページに誘導する展示が見られました。QRコードをスマートフォンなどで読み取り、詳しい商品紹介がスマートフォンで見られる様なシステムを構築していました。またバーチャル展示や企業紹介などWEBを積極的に使ったりリモート展示がみられました。またプラスチック削減コーナーや、紙を使用した商品紹介等があり、透明な紙の紹介もありました。

今年も日本包装管理士会はTOKYO PACKに参加し、10大ニュースのパネル展示とサンプル展示を行いました。またIPP本部の荒井理事による基調講演も行われました。



各所に設置された手指消毒液



展示中止エリア



CLOMAパビリオン



日本包装管理士会 展示ブース



日本包装管理士会制作 ポスター展示

関東支部見学会を振り返り

関東支部理事 田村正幸（27期）
フジモリ産業株式会社

関東支部見学会理事として20数年担当させていただいていますが、今回記憶に残る印象深かった見学会を報告します。

1つめは2005年春の見学会で都内にあるガラス瓶製造会社の第一硝子株式会社でした。普段手にしている栄養ドリンク、調味料、化粧品などの小型ガラス瓶をオートメーションで製造。後にも先にも私は見るのが初めてで、今でも記憶に残っています。ガラス瓶製造会社の見学会をしばらく実施していませんので今度また候補に上げたいと思います。その後、当時創業120年余りの都内唯一の造り酒屋小山酒造を見学し、赤羽が地元の関東支部長古平さん推薦のお店で情報交換会をしたのは今でも忘れません。

2つめは、2018年開催の見学会でした。この日は前日から台風21号が本土上陸。開催が危ぶまれましたが、関東は強風圏外とのことで実施しました。最初は船橋にある朝日プリンテックを見学。千葉県と近郊県の新聞朝刊、夕刊をここで製造。取材記事をデータ化し製版、印刷、出荷梱包する全工程を見学。こちら全工程がオートメーションでした。昔の版作りには文字ひとつづつ手作業で組み付けていたことからすると、その進歩は目を見張るものがありました。その後サッポロビール千葉工場を見学し、その園内のお店で情報交換会をしました。多少この台風の影響で帰りは電車遅延などがありましたが、無事終了しました。後で知りましたがこの台風の脅威は凄まじく関西方面では甚大な被害がありました。見学会は難なきを得て実行することができましたが、中止にするべきだったかなどと危機意識を高めた反省した会になりました。

昨年はコロナ禍で見学会開催できませんでしたが、ぜひ今年後半にでもやりたいと願います。

IPP写真研究会 活動報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲(23期)

当研究会は写真を通じて楽しさを共有する親睦の集まりです。関東支部からの活動支援金と年会費で運営しています。会員のワクチン接種が進むのに合わせ、活動を徐々に再開し、11月末には横浜山手の観光スポットで恒例の写真展を開催する予定です。横浜観光も兼ね写真研究会の写真展へご来場ください。

来場の際には元町中華街駅とアメリカ山公園の間のエレベーターを利用してください。数分の坂道をカットできます。また、写真展会場が面する山手本通りや近くの港の見える丘公園のレストランや喫茶は、人出が戻れば、休日は予約でいっぱいとか予約不可で待たされます。穴場は港の見える丘公園のホテル「KKRポートヒル横浜」のレストランです。黒カレーがお奨めです。

『第16回楽しい写真展』 【開催予定】

期間 2021年11月26日(金)～11月29日(月)

於いて [横浜山手234番館ギャラリー](#)

時間 9時30分～17時

(初日は12時より、最終日は14時まで)

内容 会員各自が撮り溜めた傑作をA3サイズに伸ばし展示します。

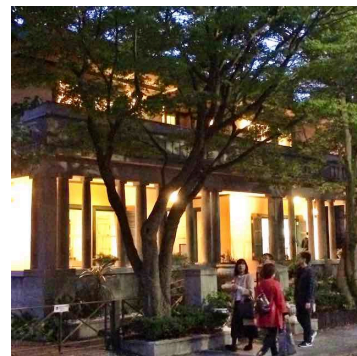
IPP写真研究会**会員募集

入会希望の方は、トライアルとして第16回楽しい写真展にA3サイズの作品を出品願います。

フレームなど指定がありますので、写真出品希望と題して、事務局あてメール願います。



例年の写真展示



写真展会場の山手234番館

◆市谷の杜 本と活字館

関東支部理事 野崎浩子 (38期)

大日本印刷株式会社

弊社市谷には存在感のある「時計台」があります。私が入社した当時は社員通用口の上にあり、毎日のように見ていました。その時計台が「市谷の杜 本と活字館」に生まれ変わりました。今回はその紹介を弊社コーポレートアーカイブ室からさせていただきます。

大日本印刷株式会社は、2021年2月、本づくりの原点である活版印刷技術と本づくりの魅力を伝える文化施設として「[市谷の杜 本と活字館](#)」を市ヶ谷にオープンさせました。

館全体のコンセプトは「リアルファクトリー」。活版印刷職場の動態展示が特徴で、館内には新旧の様々な印刷関連機械が並び、全て稼働可能な状態になっています。また職人やスタッフによる「本づくり」の過程も実際に見ることができます。

もう一つの見どころは館の建物そのものです。この建物は1926（大正15）年に営業所として建てられたものを創建当時の姿に修復復元したのですが、大正期を思い起こさせる鉄筋コンクリート造のモダニズム建築で、様式的には「分離派」の影響が多く見られます。正面入口の屋上に立ち上がった壁や柱型を強調した外装、1階室内天井の装飾彫刻などにその特徴がよく表れています。また館内の床材、腰板等についても、現存している資料から当時の意匠を出来るだけ再現しています。



「市谷の杜 本と活字館」全景

館内は、1階の「印刷所」、2階の「展示室」「制作室」の3つのゾーンに分かれています。

1階の「印刷所」は活版印刷の一連の工程を展示しています。現在のようにコンピューターを用いた作業に進化するまで、本や雑誌の印刷といえば、文字を凸型に鋳出した鉛合金製の「活字」を一文字一文字拾い集めてページを作り、インキを塗って紙に押し当てる

「活版印刷」が主流でした。今では殆ど見る事が出来ない「活字」と、再現された「活版印刷職場」を是非ご覧いただきたいと思います。また昭和初期まで活躍していた印刷機がレストアを経て実際に動いている姿や、職人が「ウマ」と呼ばれる活字棚から活字を拾う様子もご覧いただけます。さらに最新のデジタル技術を用いたものとして、ICタグが付いた機器を使って活版印刷に必要な道具や機材を学んでいただける装置や、活字棚から活字を拾う作業を疑似体験ができるMR（Mixed Reality、複合現実）コンテンツなど、皆様に楽しんでいただける展示をご用意しています。

2階の「展示室」は4カ月ごとに更新される企画展示スペースになっています。10月31日までは「時計台の修復・復元」展を開催しており、館の建物が創建当時の姿に復元されていく過程を、古い写真や映像を交えてご覧いただけます。この「展示室」では、今後様々な切り口で印刷製本のプロセスや技術に関する企画展を計画しており、ご来館の皆様には「本づくりの楽しさ」を発見していただきたいと思います。

また同じく2階の「制作室」では、来館した皆様に楽しみながら印刷や本づくりについて学んでいただくワークショップを展開。現在はコロナ禍の影響によりほとんどワークショップを開催出来ていませんが、コロナが落ち着いた折には、皆様に「印刷の魅力」を感じていただける企画を多数ご提供してまいります。

文責：大日本印刷株式会社

コーポレートアーカイブ室副室長
飯島由紀（いじま よしのり）



1階 印刷所

「市谷の杜 本と活字館」

・新宿区市谷加賀町1-1-1 大日本印刷内

<https://ichigaya-letterpress.jp/>

・入館無料（予約制）

・開館：平日11:30～20:00 土日祝10:00～18:00

・休館：月・火曜日(祝日の場合は開館)、年末年始

・東京メトロ有楽町線・南北線「市ヶ谷」駅6番出口
徒歩12分／J R「市ヶ谷」駅徒歩15分

・お問合せ 03-6386-0555

関東支部は来年で50周年を迎えます。これを記念して様々な行事を企画開催する予定です。

まず、記念事業を盛り上げるため、今年度から来年にかけて、数回のセミナーを予定しております。

今までにお願いしたことがない様な分野の講師をお招きし、セミナーを行う予定です。

セミナーはリモートか？あるいはリアルか？

について検討段階ですが、会員の皆さまには決まり次第、通知とご意見募集を行う予定ですのでご協力のほどよろしくお願い致します。50周年記念事業は、TOKYO PACKが開催される2022年10月を予定しています。記念講演ならびに記念式典を実施する予定です。現在、プロジェクトを立ち上げメンバーでいろいろと行動を開始しております。

最後までお読みくださりありがとうございます。

日本包装管理士会では年間の活動報告ならびに決算報告を議案書にまとめ総会という形で毎年、会員の皆様にご審議いただいております。本誌においてその決議結果を載せていますのでご一読願います。コロナ禍で多くのイベントが中止する中、役員の皆様のご協力により『ippニュース 131号』を、ここに纏めることができました。関係者の皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。さて昨年の夏号に続き本号も電子発行となりましたが、いかがお感じでしょうか？ 写真の掲載がモノクロからカラーに変わりました。また所々に下線付き青字でリンクを埋めるなどの工夫をしております。『ippニュース』についてお感じになられたことがありましたら、ぜひ下記メールアドレスまでご意見をお寄せください。

道明 誠 (23期)

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp

<http://www.ippj.net/>

■本部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL: 03-3543-9250 FAX: 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	TEL: 011-241-8591 FAX: 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社東北ウエノ内	TEL: 0191-21-4531 FAX: 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL: 03-3543-9250 FAX: 03-3543-8970
■中部支部	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南4-12-17 日通ビル2F 日本包装技術協会内	TEL: 052-563-7110 FAX: 052-563-7123
■関西支部	〒550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	携帯: 090-4305-3906 (桃川) FAX: 06-6606-8768
■西日本支部	〒849-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西6-3-2 株式会社サガシキ内	携帯: 090-9876-7832

..... Copy & FAX 用切取線

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 Fax: 03-3543-8970 ☎: 03-3543-9250

フリガナ	会員番号	番
氏名	届出日	令和 年 月 日
会社	社名 所属 住所 〒 TEL E-mail	FAX
自宅	住所 〒 TEL E-mail	FAX